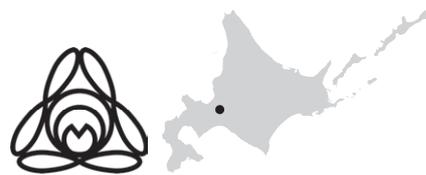




The Ambitious City—大志をいだくまち— 北広島市



北広島市基礎データ

総人口	57,566人 (令和4年3月末現在)	農業産出額	435千万円 (令和2年度市町村別農業産出額(推計))
高齢人口(高齢化率)	19,290人 33.5% (令和4年3月末現在)	製造品出荷額等(総額)	9,491千万円 (令和2年工業統計調査)
世帯数	28,091世帯 (令和4年3月末現在)	卸・小売年間販売額	20,956千万円 (平成28年経済センサス-活動調査)
人口密度	483.5人/km ²	一般会計規模(歳出額予算ベース)	28,021,565千円 (令和4年度当初予算)
面積	119.05km ²	市の花	つつじ
		市の木	かえで

北広島市の紹介

札幌市の南方に隣接する北広島市は、国道36号や国道274号を中心とした広域幹線道路網、道央自動車道、JR千歳線、特に新千歳空港駅から20分、札幌駅から16分と交通網が充実した高い利便性を有しています。このような利便性の良さから、宅地開発や工業団地の造成、都市基盤の整備が着実に進められてきました。大都市の札幌市に隣接しながらも、公園・緑地の計画的な整備により、自然と都市機能が調和したまちが形成され、充実した生活環境が市民の生活を支えています。

北広島市の歴史

北広島市は、安政4年(1857年)に「札幌越新道」と呼ばれる陸路(室蘭～札幌(現在の国道36号))が開削され、以来、人々の往来、交流が行われてきました。

明治6年(1873年)、河内(現在の大阪府)出身の中山久蔵が当市島松の地において、道南以北では難しいとされていた寒冷地での米

作りに成功しました。また、中山久蔵が4代目駅通所取扱人を務めた島松駅通所は、交通の要衝として多くの旅人に利用され、明治10年(1877年)に札幌農学校(現北海道大学)初代教頭のW.S.クラークは、現在の旧島松駅通所付近(当時の中山久蔵宅)で学生や職員らと別れる際に「ボーイズ ビー アンビシャス」の言葉を残した縁の地でもあります。



旧島松駅通所

北広島市の本格的なまちづくりが始まったのは、明治17年(1884年)、和田郁次郎を中心とする広島県人らが輪厚川周辺(現東部地区)に入植したことによります。入植した地は、「広島開墾地」と呼ばれています。広島

開墾地は、移住初年から10年後には、500戸を超える一大集落となり、明治27年（1894年）に大曲方面の約130戸とともに月寒村から独立し、広島村となりました。開村80周年を迎えた頃から、純農村地帯から都市化へと宅地造成、工業団地の造成を進め、昭和43年（1968年）に町制施行により広島町が誕生しました。

昭和45年（1970年）には、北海道による戸建住宅を中心とした「北広島団地」の造成が始まりました。「北広島団地」は、フィンランドのタピオラ団地をモデルとした豊かな緑とゆとりある住環境が特徴で、この整備以降、他自治体からの転入者が増加し、平成8年（1996年）には道内33番目の市である北広島市となり、現在に至っています。



竹葉公園からの住宅街

北海道ボールパークFビレッジ

北広島市は、自然と利便性の高い都市機能が調和する魅力的な住環境を有する一方で、急速な少子高齢化・人口減少の進行や、それに伴う地域活力の低下などの課題を抱えています。

現在、官民連携プロジェクトとして、令和5年（2023年）3月の開業に向け、プロ野球「北海道日本ハムファイターズ」の新球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」を核と

した北海道ボールパークFビレッジの整備が進められています。

球団とは2018年の新球場誘致の段階から「パートナー協定」を締結しており、例えば学校教育との連携として、市内小中学校において、元プロ野球選手のファイターズアカデミーコーチが教師となり、体育やキャリア教育の授業を行う取組や、既存のマラソン大会や食育教室などを球団の資源を取り入れながら開催するなど、様々な場面で球団との連携を推進しており、今では球団の存在が市民にとってより身近なものとなりつつあります。



大曲小学校体育授業

Fビレッジは、プロスポーツの試合観戦という役割だけではなく、多くの人々がこのまちに集い、交流を育む、今後のまちづくりにおいて重要な役割を担うエリアでもあります。令和5年3月にFビレッジが開業することから、北広島市のまちづくりにおいて、歴史的な年を迎えます。



北海道ボールパークFビレッジ

駅西口周辺エリア活性化事業

JR北広島駅周辺エリアは、北広島市都市計画マスタープラン（第2次）において北広島市の中核的な拠点地区に、北広島市立地適正化計画においては都市機能誘導区域に位置付けています。また、JR北広島駅が北海道ボールパークFビレッジへのアクセス拠点となることから、当該エリアが担う役割は、ますます重要なものとなっております。そこで、Fビレッジへのアクセス機能整備と併せて、北広島の顔となるにぎわいと交流を生む拠点の形成等を図ることを目的として駅西口周辺エリアの活性化に向けた取組を進めています。

令和元年8月に、駅西口周辺エリアにある市有地の有効活用方法などにおける意見・提案を今後の事業実施の参考とすることを目的にサウンディング型市場調査を実施しました。結果は、5社に参加いただき、前向きな意見が多かったことから、当該エリアにおける事業の市場性はあると判断しました。

令和2年2月には、JR北広島駅西口周辺エリアについて、Fビレッジへのアクセス拠点となることを踏まえ、北広島の顔となるにぎわいと交流を生む拠点の形成等を実現するため、まちづくりの方向性を示すことを目的として駅西口周辺エリア活性化計画を策定しました。

活性化計画に基づき、公募型プロポーザル方式によるパートナー企業の公募を実施し、駅西口周辺エリア活性化に係るパートナー企業選定委員会の審査・答申を経て、令和2年12月に株式会社日本エスコンを優先交渉権者に選定、令和3年3月に同社とパートナー協定を締結しました。

パートナー協定書に基づき、駅西口周辺エリアにおける事業コンセプトや対象市有地の

土地利用、機能整備に係る計画など、本事業を推進する上で必要な事項を定めることを目的に、パートナー企業が市と協議の上、令和3年4月に駅西口周辺エリア活性化整備計画『キタヒロ・ホームタウン-BASE 2021-2029』を策定しました。まずは、Fビレッジの開業に向け、シャトルバスが運行できるようロータリーの整備を優先的に実施し、JR北広島駅周辺と北海道ボールパークFビレッジ周辺との連担性を持ったまちづくりを進めていくこととしています。

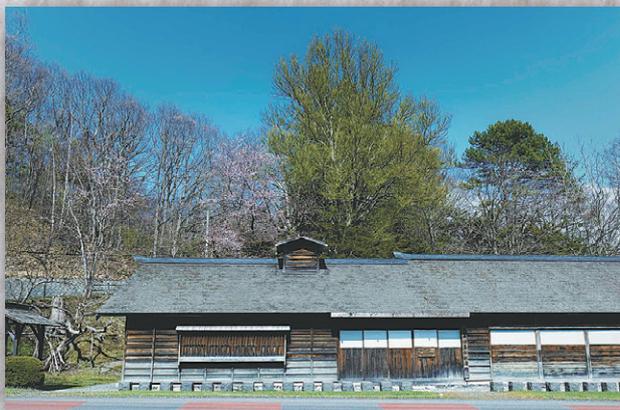


完成予想イメージ

今後のまちづくり

令和4年度は、北海道ボールパークFビレッジの開業、駅西口周辺エリアの本格着工など、北広島市にとっては、歴史的な一歩を踏み出す年となります。北広島市は、様々な課題を抱えていますが、幾多の困難を乗り越えてきた先人たちは、努力や挑戦する意志をもって乗り越えてきました。総合計画（第6次）に掲げた「希望都市」「交流都市」「成長都市」の実現に向けて、北広島市の新たな価値や魅力を創造し、子どもたちが未来に夢と希望を持てるまちを目指していきます。

北広島市の四季



【春】旧島松駅通所



【夏】竹葉公園からの眺め



【秋】黄色く染まる銀杏並木



【冬】レクリエーションの森